

令和 6 年度(2024 年度)用

小学校算数科用

「新編 新しい算数」
年間指導計画作成資料
複式
【1・2年】

令和 6 年 (2024 年) 2 月版

※単元ごとの配当時数、学習内容などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

新編 新しい算数 第1・2学年 (複式)年間指導計画案(基底)

■活用の際の留意事項

- (1) 年間の授業時数が、1学年は136時間、2学年は175時間と大幅に異なるため、時程の組み合わせ方は各学校で柔軟に調整する必要があります。
- (2) 1学年の初期の段階で、2学年との類似内容指導を行うのは無理があり、有効とは思えません。したがって、2学期から、可能な限り類似内容の指導を設定するようにしています。
- (3) 配当時間が単式の場合と異なる単元がありますが、これは2つの学年の内容を組み合わせる都合などによるものです。
- (4) 学習内容の詳細は、単式用の指導計画作成資料を参照してください。

■指導計画

(1) 単元名の**1**、**2**などは複式学級での配当時数を、[1]、[2]などは単式学級での配当時数を表しています。

(2) 「単元名・学習内容」の……は、共通あるいは類似の学習活動を示しています。

月	時間数	単元名・学習内容		留意事項
		1学年	2学年	
4	1年 1 2年 1	★くらべたことがあるかな、★おおいのはどちらかな (①p.1~2) 1 [1]	★学びのとびら (上p.2~7) 1 [1]	どちらも過去の経験や学習を想起する。今後も、過去の経験や学習内容を生かして学習を進めていくことを本時で共通して確認したい。
	1年 21 2年 21	1. なかまづくりとかず (①p.3~33) 15 [15] 2. なんばんめ (①p.34~37) 2 [2] ★どのようにかわるかな、★しあげよう (①p.38~40) 1 [1] 6. わかりやすくせいりしよう (②p.32~35) 3 [3]	1. グラフとひょう (上p.8~11) 3 [3] 2. たし算のひつ算 (上p.12~23、123) 8 [8] 3. ひき算のひつ算 (上p.24~35、123) 8 [8] ★どんな計算になるのかな? (上p.36) 2 [2]	
5	1年 27 2年 21	3. あわせていくつ ふえるといいくつ (②p.2~12) 8 [8] 4. のこりはいくつ ちがいはいくつ (②p.14~25) 9 [9] 7. 10よりおおきいかず (②p.36~47) 9 [9] 8. なんじなんじはん (②p.48~49) 1 [1]	5. 3けたの数 (上p.50~65、124) 12 [12] 4. 長さのたんい (上p.37~49) 9 [9] 10. 長方形と正方形 (上p.100~112) 10 [10]	同じ領域の学習内容があるが、1学年が入門期なので同じ内容の扱いとしない。
	1年 31 2年 31			
6	1年 5 2年 17	5. どちらがながい (②p.26~31) 5 [5]	8. 計算のくふう (上p.81~85) 5 [5] 9. たし算とひき算のひつ算 (上p.86~99、125) 10 [10] 7. 時こくと時間 (上p.76~79、124) 2 [2]	同じ領域の学習内容があるが、1学年が入門期なので同じ内容の扱いとしない。
	1年 7 2年 8	10. どちらがおおい (②p.55~58) 4 [4]	6. 水のかさのたんい (上p.66~75) 8 [8]	
7	1年 10 2年 17	○具体物などを用いた操作(直接比較、間接比較、任意単位、普遍単位)を通して、体積を比較すること ○任意単位やますを用いた体積の測定などを通して、それぞれの体積を数値化して単位を用いて表すこと	●体積の概念 ●体積の測定(直接比較、間接比較) ●体積を数値化して表すこと(任意単位の初步) 9. 3つのかずのけいさん (②p.51~54) 3 [3]	両学年とも、体積についての学習内容なので、導入場面や課題などの共通化を工夫する。
	1年 19 2年 15	11. たしざん (②p.60~70) 10 [10]	11. かけ算(1) (下p.2~24) 17 [17]	
11	1年 19 2年 17			同じ領域の学習内容なので、関連づくように活動の構成などを工夫する。
	1年 15	13. ひきざん ★どんなけいさんになるのかな? (②p.76~85) 10 [10] 14. ひきざん ★けいさんびらみっど (②p.86~87) 2 [2] ★ビルをつくろう (②p.88~89) 2 [2]	12. かけ算(2) (下p.27~48) 15 [15]	
12	1年 14 2年 16	12. かけ算(2) ★けいさんびらみっど (②p.86~87) 2 [2] ★ビルをつくろう (②p.88~89) 2 [2] 12. かたちあそび (②p.72~75) 4 [4]	13. 4けたの数 (下p.50~63) 11 [11]	両学年とも、同じ領域の学習内容なので、共通教材や操作を通じた指導を工夫しながら、整数の十進構造に着目させることが重要である。特に、数の系列や大小などについては、位取り記数法の仕組みと関連させながら、十進位取り記数法のよさを知り、10のまとまりに着目しながら数えたり、数を用いて表したりすること
	2	●10のまとまりをつくって数えること ●100までの数の唱え方、数え方 ●2位数の位取りの原理、数の構成 ●100までの数の系列、順序、大小 ●数直線に表された数の読み取り ●簡単な3位数(120程度まで数えること) ●簡単な場合の2位数の加法、減法 ・繰り上がり、繰り下がりのない2位数±1位数 ・何十±何十	16. 分数 (下p.80~88) 5 [5]	

月	時間数	単元名・学習内容		留意事項
		1学年	2学年	
2	1年 3 2年 6	15. どちらがひろい ((2)p.106~107) 1 [1]	14. 長いものの長さのたんい (下p.64~71) 6 [6]	両学年とも、同じ領域の学習内容なので、具体的な操作や測定を通して学習するという共通性はあるが、内容には相違があるので取り扱いに注意する。
		○具体的な操作や測定を通して、それぞれの量を比較したり単位を用いて表したりすること		
		●面積の概念 ●面積の比較(直接比較、陣取りでの数値化による比較) 16.なんじなんぶん ((2)p.108~110) 2 [2]	●長さの単位「メートル」 ●1m=100cmの単位関係 ●長さについての加減計算	
	1年 5 2年 5	17. たしざんとひきざん ((2)p.112~119) 5 [5]	15. たし算とひき算 (下p.72~79、109) 5 [5]	両学年とも、加減法の意味理解についての学習内容なので、それぞれの学年に応じて、問題場面を絵や図などに表す活動とすることで、課題の共通化などを工夫する。
		○問題場面をもとに、おはじきなどの半具体物を用いて表したり、絵や○図、テープ図に表したりして、数量の関係をとらえること	●順序数に関する加法や減法 ●異種の量について加法や減法が適用できること ●加減の意味の拡張(求大、求小)	
	3	18. かたちづくり ((2)p.120~125) 6 [6]	17. はこの形 (下p.90~95、109) 5 [5]	両学年とも、同じ領域の学習内容なので、図形を観察したり構成したりする活動を通して学習するという共通性はあるが、内容には相違があるので取り扱いに注意する。
		○身の回りにあるものの形を観察したり構成したりする、図形についての理解の基礎となる活動 ●色板や数え棒、ドットを用いた基本的な平面図形の構成	●箱の形をもとにした立体と平面の関係 ●立体図形(立方体、立方体)の構成要素としての頂点、辺、面の特徴	
		★1ねんのふくしゅう ((2)p.126~128) 2 [2]	★計算ピラミッド ★2年のふくしゅう (下p.98~102) 4 [4]	1ねんのふくしゅうでは、繰り上がりと繰り下がりのある計算練習に時間をかけ、計算技能の習熟を図る。
		予備時間	16	予備時間
				27